

平成31年度事業報告書

神戸市立たちばな児童館放課後児童クラブ

1. 《基本方針》

- ① 豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る。
- ② 保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う。
- ③ 湊学童保育コーナーとの連携を密に図る。

2. 《平成31年度目標》

- ① 高学年児童への対応を学び知識・技能を深める。
→研修参加、ミーティングや会議で話し合いを重ねた。
- ② 豊かな経験ができるよう努める。
→地域の行事に参加したり、児童館の行事に準備から参加をしたりした。
- ③ 夏季休業日期間の希望者お弁当委託サービスを行う。
→実施予定であったが、直前に業者の都合で実施ができなくなってしまった。
他の業者にも10件以上問い合わせたが、どこもできなかった。
- ④ リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
→コーナーや、こども園でのことを参考にしながら安全確保に努めた。
- ⑤ 児童、職員の交流を深め、湊学童保育コーナーと一体的に保育を行う。
→児童館の行事にコーナーの児童が参加をした。職員が入れ替わって保育をする機会も設けた。
法人内こども園へも夏休み期間中などを利用して交流することが出来た。
- ⑥ ICTを導入し、出欠の確認等の業務の効率化を図る。
→サクラシステムを導入し、出欠確認や報告書作成等の業務を効率的にこなせるようにした。

3. 《指導内容》

- ① 健やかで安全な環境作りに努めるとともに、限られた場所と時間の中で自立を支援する指導を行ったり、人間関係が円滑にいくよう指導を行った。
・学習支援 ・おはなし会 ・けん玉遊びの推奨 ・おりがみ教室
- ② 学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保・自立支援に努めた。

4. 《年間行事》

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり参加
6月	七夕飾り作り
7月	たちばなカフェ 清風児童館夏祭り参加 夏祭り 交通安全指導 サマープログラム（工作、ゲーム）
8月	サマープログラム（工作、ゲーム）ビデオシアター

	地域こども神輿参加 カプラワークショップ
9月	運動遊び
10月	ハロウィンパーティー
11月	クリスマス飾り作り
12月	クリスマス会 たちばなカフェ
1月	かるた大会 けん玉グランプリ 地域防災訓練参加 新入会資料配布
2月	地域文化祭参加
3月	お別れ会 入会説明会 たちばなカフェ

5. 《月間行事》

誕生日会・けん玉検定・おりがみ教室・おはなし会・みんなであそぼう
 ホットHOTキッチン参加（神戸市従退職者会主催）

6. 《初日在籍数》

	1年生 (人)	2年生 (人)	3年生 (人)	4年生 (人)	5年生 (人)	6年生 (人)	合計
4月	9	17	18	5	6	2	57
5月	10	17	18	5	6	2	58
6月	10	17	18	5	6	2	58
7月	10	17	18	4	5	2	56
8月	9	18	18	4	5	2	56
9月	9	18	18	3	5	2	55
10月	9	18	18	3	5	2	55
11月	9	18	18	3	5	2	55
12月	9	18	18	3	5	2	55
1月	9	17	18	3	5	2	54
2月	9	17	18	3	5	2	54
3月	10	17	18	3	5	2	55
合計	112	209	216	44	63	24	668

7. 《防災・防犯訓練》

火災・地震・防犯の何れかの訓練を、月1回以上行った。
 総合福祉センターや地域の防災訓練にも参加した。

月日	訓練の種類	参加人数
4月 4日	火災訓練	36
4月 12日	防犯訓練	39
5月 15日	地震訓練	27
6月 12日	防犯訓練	40
7月 2日	水害訓練	40

7月17日	防犯訓練	40
8月6日	火災訓練	40
8月27日	防犯訓練	35
9月2日	地震訓練	36
10月8日	防犯訓練	33
10月16日	火災訓練	37
11月5日	地震訓練	17
11月13日	火災訓練	40
12月3日	防犯訓練	40
12月18日	火災訓練	37
1月15日	地震訓練	38
1月18日	避難訓練（地震、津波）…地域の訓練に参加	10
1月22日	防犯訓練	30
2月18日	火災訓練	30
2月25日	防犯訓練	33

8. 《会議》

毎月職員会議を行った。児童について・児童の関わり・作業手順の統一・学童保育の約束事の共通理解・問題点や改善点について話し合った。

毎月リーダー会議を行い、児童館と情報交換や約束事の統一、問題点について話し合った。

9. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

平成31年度 事故 1件

平成30年度 事故 3件

① 事故発生内容

骨折・・・1件

② まとめ

床に手をついた際、他児が気付かずに踏んでしまい、小指の軟骨を骨折した。

集団にいるときに、周りのことを意識しながら活動ができるよう、指導をしていくとともに、職員も危険を事前に察知して、防ぐことができるように努めていく。

10. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→館長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・5件

平成31年度				平成30年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	5件	5件	0件		1件	1件	0件

○まとめ

4件が特定の保護者からのもので、神戸市へ直接連絡が入ったものだった。内容的に受け入れられないものは神戸市から少し強めに回答してもらった。精神疾患のある保護者の方なので、気持ちの浮き沈みの様子を見ながらコミュニケーションをとっていく。

子ども同士のトラブルが原因で起こったことに関しては、当日に保護者に伝わっていなかったこと、トラブルが大きくなるまで気付けなかったことが考えられる。職員の資質向上に努めていく。

11. 《総括》

湊学童保育コーナーができたことにより、登録児童が約半数になった。人数が減った分、それぞれが活動スペースに余裕をもって過ごせるようになった。一般来館に来ていた小学生で、母親と子どもの様子が気になることがあったので小学校へ行き、気になったことの詳細を伝えた。小学校も気にかけている児童とのことだった。お互いの情報を共有できるように、それぞれの学校と定期的に情報交換をしていくことになったので、協力をして地域の子どもを育てていきたい。

学校がある期間はおやつや学習時間を一斉に行うことを止め、それぞれ自分の来館時間に合わせて行動するようにした。始めは、おやつを食べていなかったり、学習を忘れてしまう児童もいたが、慣れてくると、いつ何をするか自分で決めて動くことができるようになった。自主的な活動が他の場面でも少しずつ出始めているので、職員も子どもが自主的に活動していく上で必要な保育について学んでいく。

5、6年生が学童保育を利用することが増えた。年度の後半には、年下の児童の面倒を見たり、手探りながらもリーダー役を試みたりと、高学年としての意識を持つ姿が多く見られた。職員も高学年児童が充実した活動を行えるように、適切なサポートについて学んでいく。

低学年は、特に一人一人と十分に関わり、児童にとって大好きな場になり、自分を出せる場になるよう努めたい。

言葉が乱暴な児童や、室内で暴れている児童も多いので、躰も大切にしていきたい。児童が伸びやかに成長でき、時代のニーズにも対応できるよう職員全員が研鑽し、資質向上を図っていきたい。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策の為、児童にマスクの着用や手洗い、消毒等の対策を伝え実施した。ストレスのたまる生活を余儀なくされたが、安全面に配慮しながら体を動かしたり、普段とは違う活動を取り入れるなどして、少しでも子どもの精神的負担を緩和するように努めた。